

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	公衆衛生看護学概論 T22001	通年	講義	2	
担当教員	代田 とみ子				
授業の概要	公衆衛生看護の理念、基本的概念、基本となる理論、歴史、公衆衛生看護活動の場と対象、活動の展開方法について学ぶ。公衆衛生看護について多様な視点から学ぶことを通して、人々の生活の質の向上に貢献することのできる保健師活動の在り方を考える。				
到達目標	1. 公衆衛生看護の基本的理念および対象を理解できる。 2. 公衆衛生看護の担い手である保健師の活動の歴史および現状と課題を述べるができる。 3. 保健師活動に必要な知識・技術およびそれらの質を向上させるための姿勢について述べるができる。				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○				
授業計画	1. 公衆衛生看護の基本理念 公衆衛生看護とは何かを考える 2. 公衆衛生看護の対象 公衆衛生看護の対象は何であるかを考える 3. 公衆衛生看護の対象の理解① 個人 公衆衛生看護の対象である個人をどのように捉え、どのように支援していくのか考える 4. 公衆衛生看護の対象の理解② 家族 公衆衛生看護の対象である家族をどのように捉え、どのように支援していくのか考える 5. 公衆衛生看護の対象の理解③ 集団・組織、地域 公衆衛生看護の対象である地域をどのように捉え、どのように支援していくのか考える 6. 公衆衛生看護の場 保健師の就業する場とそこで果たしている役割 7. 社会環境の変化と健康課題 人口および疾病構造の変化による健康課題 / 社会構造・文化的背景の変化による健康課題 8. 公衆衛生看護活動の展開の基盤 健康と生活 / 公衆衛生活動の基盤となる予防およびその展開方法 9. 10. 公衆衛生看護活動における地域アセスメントに活用される概念モデルの理解 コミュニティ・アズパートナーモデルとプリシード・プロシードモデルについて、 グループワークを通じて理解を深める 11. 公衆衛生看護の歴史 保健師達が活動した時代の特徴と公衆衛生看護の歴史 12. 13. 地域活動におけるヘルスプロモーションの実際 特別講師をまねきお話をお聞きする中で、今までの歴史的背景を交えて思考を深める 14. 15. 現代の公衆衛生看護活動において保健師が取り組む課題と活動の実際 各所での実習を振り返り、保健師の活動とは何かについてディスカッションを踏まえて考える				
事前・事後学習について	事前学習：事前に示す授業計画のテキストの該当範囲を読んで講義に臨んでください。 その他、課題を適宜提示するので取り組みましょう。 事後学習：毎回の授業の内容を振り返っておきましょう。				
準備学習に必要な時間	事前学習：1 時間程度 事後学習：1 時間程度				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	70	第 1 回～11 回の講義内容の理解		
	実践	0			
	レポート	25	第 12～15 回の講義を受けた上での保健師活動のあり方と責務に関する理解・思考		
	その他	5	適宜提示される課題の提出内容・提出状況		
受講上の注意・課題のフィードバック	提示した課題については添削し、授業内で全体の課題の傾向を伝えていきます。それをもとに各自、自己課題を確認していきましょう。疑問・質問には随時対応します。				
使用テキスト	標美奈子他：標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 第 6 版 医学書院 中村裕美子他：標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 第 5 版 医学書院 井伊久美子他：[新版]保健師業務要覧 第 4 版 2025 年版 日本看護協会出版 地域づくり運動全国交流センター編：つながって生きる地域に働き住民とともに学ぶ労働者 やどかり出版 2008 年 公衆衛生がみえる 2024-2025 医療情報科学研究所編 メディックメディア 2024				
参考書	JOICFP ドキュメント刊行委員会：須坂の母ちゃん頑張る 復刻版 須坂市 村中峯子：保健師、このステキな仕事 あの人の思いでカバン 社会保険研究所 平成 24 年 高尾 茂子：保健師 地域の健康をつむぐそのはたらきと能力形成 発行日 ふくろう出版 2015 年				

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	公衆衛生看護技術論 I T23002	前期	講義・演習	1	
担当教員	木下 ひとみ・青木 恵子				
授業の概要	公衆衛生看護に求められる機能と技術について理解する。公衆衛生看護活動における特定の個人・家族の健康状態および QOL の向上を目指す対人支援の在り方を理解すると共に、それらを連動させて地域全体や組織の健康状態、QOL の向上を目指すために必要な技術について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護に求められる機能と技術について理解することができる。 2. 特定の個人・家族の健康状態および QOL の向上を目指す対人支援の在り方を理解することができる。 3. 公衆衛生看護活動における地域アセスメントについて理解することができる。 4. 公衆衛生看護活動の計画・実践・評価について理解することができる。 5. 演習を通して、地域アセスメント・計画立案・評価の方法を理解することができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○	○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護における機能と技術 公衆衛生看護に求められる機能と技術、保健師に求められる能力、公衆衛生看護における保健指導 2. 対人支援活動の展開 対人支援の基本と技術/健康相談 3. 公衆衛生看護活動の展開における地域アセスメント 保健師活動の展開における地域診断の位置づけとそのプロセス 4. 公衆衛生看護活動の計画・実践 公衆衛生看護実践の展開における計画立案の必要性と立案の方法 5. 公衆衛生看護活動の評価 公衆衛生看護活動における評価の必要性とその方法 6. 地域アセスメントの実践に向けて ライフステージごとの情報収集およびデータ分析 ①母子保健 7. 地域アセスメントの実践に向けて ライフステージごとの情報収集およびデータ分析 ②成人保健 8. 地域アセスメントの実践に向けて ライフステージごとの情報収集およびデータ分析 ③高齢者保健 <p>*6.7.8 回目は、公衆衛生看護学実習で各自が実際に赴く市町村のデータを用いて、その収集・分析方法について演習を通して学ぶ</p>				
事前・事後学習について	<p>事前学習：事前に示す授業計画のテキストの該当範囲を読んで講義に臨んでください。 その他、適宜課題を提示するので取り組みましょう。</p> <p>事後学習：毎回の講義の復習をしてください。さらに、演習ではグループでのワークを振り返り、学んだ技術を自分のものとして実習で活用できるための整理をしておきましょう。</p>				
準備学習に必要な時間	<p>事前学習：講義のみの日 1 時間程度 演習のための事前課題提示時 1 時間～2 時間程度</p> <p>事後学習：講義の日 1 時間程度 演習の日 1 時間～2 時間程度</p>				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	60	講義内容の理解		
	実践	40	事前課題の取り組み、グループワークへの参加状況、事後課題への取り組み		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	講義・演習の中で、事前・事後学習に関する質問にお答えします。必要に応じて試験の解説を行います。その中で、各自、自己課題を確認して、理解を深めていきましょう。疑問・質問には随時対応します。				
使用テキスト	<p>標美奈子他：標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 第 6 版 医学書院</p> <p>中村裕美子他：標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 第 5 版 医学書院</p>				
参考書	適宜指示				

対象学生	地域看護学専攻 1		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	公衆衛生看護技術論Ⅱ T23003		前期	講義・演習	2					
担当教員	木下 ひとみ・青木 恵子									
授業の概要	公衆衛生看護活動を展開する際に必要となる家庭訪問-健康教育の展開に関する具体的な技術について理解する。さらに公衆衛生看護の実践を記録に留める必要性とその方法を理解する。これらを統合し実践に向け家庭訪問・健康教育に関する一連の技術を習得するための演習を実施する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護活動で行う家庭訪問・健康教育の展開に関する具体的な技術について理解できる。 2. 公衆衛生看護の実践における記録の必要性とその方法について理解できる。 3. 家庭訪問の実践に向けた計画立案・実施・評価に必要な技術を習得することができる。 4. 健康教育の実践に向けた指導案立案・実施に必要な技術を習得することができる。 									
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3							
	○	○								
授業計画	<p>健康教育指導案の作成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 保健師の行う健康教育の展開 2. 講義 健康教育指導案の作成の手順 健康教育テーマの提示と取り組むグループメンバーおよび担当教員の決定 3. 演習① 指導案の立案 提示された健康教育のテーマについて、各自で持ち寄った資料を基にグループ内で対象者に伝えるべき内容を検討する。 4. 演習② 指導案の立案 健康教育の目的・目標の決定 目的・目標を達成するための実施内容の検討① 5. 演習③ 指導案の立案 目的・目標を達成するための実施内容の検討② 内容を充実させるための資料案の検討① 6. 演習④ 指導案の立案 内容を充実させるための資料案の検討② 7. 演習⑤ 発表準備の説明 完成した指導案に準じて、担当教員の指導のもと各グループで健康教育実践発表の準備を行っていく 資料作成 8. 演習⑥ 発表準備 資料作成・発表練習 9. 演習⑦ 発表準備 資料作成・発表練習 10. 演習⑧ 発表準備 資料作成・発表練習 <p>家庭訪問計画の立案</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 講義 家族を理解するための諸理論 12. 講義 訪問対象の決定方法 対象を理解する際の視点 13. 講義 保健師の行う家庭訪問の特徴 14. 講義 家庭訪問の進め方・家庭訪問の記録 15. 講義 家庭訪問立案の手順 16. 演習 家庭訪問計事例提示とその説明 17. 演習 家庭訪問計画の立案① 個別立案と個別指導 18. 演習 家庭訪問計画の立案② 個別立案と個別指導 19. 演習 家庭訪問計画の立案③ 個別立案と個別指導 20. 演習 家庭訪問計画グループ内での確認 21. 22 演習 家庭訪問に必要な技術の確認 正しい計測方法、発達の確認方法等についてその手技を確認する 23. 演習 グループ内で家庭訪問の実践に向けた手順やその方法の確認を行う 									
事前・事後学習について	<p>事前学習：事前に示す授業計画のテキストの該当範囲を読んで講義に臨んでください。 その他、適宜課題を提示するので取り組みましょう。</p> <p>事後学習：毎回の講義・演習の復習をしてください。さらに、演習では個別ワーク、グループワークを振り返り、学んだ技術を自分のものとして実習で活用できるための整理をしておきましょう。</p>									
準備学習に必要な時間	<p>事前学習：講義のみの日 1時間程度 演習のための事前課題提示時 1時間～2時間程度</p> <p>事後学習：講義振り返り 1時間程度 演習の振り返り 1時間～2時間程度</p>									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	90	各演習課題に関する知識・技術・思考・表現							
	レポート	0								
	その他	10	主体的に学習・演習に取り組む態度 グループ内演習における役割の果たし方							
受講上の注意・課題のフィードバック	講義・演習の中で、事前・事後学習に関する質問にお答えします。疑問・質問には随時対応します。									
使用テキスト	中村裕美子他：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第5版 医学書院									
参考書	適宜指示									

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	健康生活論 T22004	前期	講義	2	
担当教員	木下 ひとみ・新海 シズ・友竹 浩之・青木 恵子				
授業の概要	人々の健康に食事や運動習慣がどのように影響するのかを理解することで、地域住民の潜在または顕在する健康課題を捉える視点を養う。その課題に対して対象者が主体的に行動できるような関わり方を考える。				
到達目標	健康に影響を及ぼす要因を理解し、地域住民の顕在・潜在する健康課題を捉える視点を養うことができる。 地域住民が自身の健康課題に気づき、主体的に行動できるような支援について考えることができる。				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○	○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における歯科保健の動向と歯・口腔の健康指標・評価 2. ライフステージにおける歯科保健 (1) 口腔および歯に関する知識と疾患の理解 3. ライフステージにおける歯科保健 (2) 口腔および歯の衛生と保健活動の実際 4. 生活習慣病と身体活動との関連 (1) 身体活動・運動に関する国の施策、動向 5. 生活習慣病と身体活動との関連 (2) 保健予防活動における「身体活動・運動」の捉え方 6-7. 生活習慣病予防における保健指導の実際 (特別講師) (友竹浩之担当範囲) 8. 食生活の現状と問題点 9. 生活習慣病と食生活との関連① 10. 生活習慣病と食生活との関連② 11. 生活習慣病と食生活との関連③ (新海シズ担当範囲) 12. 食事摂取基準 13. 食事評価 (食事バランスガイド) 14. 生活習慣病と特定保健指導 (検査値からみた食生活) ① 15. 生活習慣病と特定保健指導 (検査値からみた食生活) ② 				
事前・事後学習について	<p>事前学習：自らの生活を見つめ、健康な生活習慣ができているか振り返ってみましょう。 そして、私たちの生活習慣の形成や行動変容に影響する要因について考えてみましょう。</p> <p>事後学習：授業の振り返りを行い、毎回の授業をつながりをもって理解していきましょう。</p>				
準備学習に必要な時間	教科書の該当範囲を熟読し、理解した内容を他者に説明できるようにしておきましょう (1 時間程度)。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	20	講義・グループワークに主体的に取り組む態度		
	レポート	80	健康課題解決への支援・食生活・運動に関する支援についての思考、判断		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	グループワークでは活発な意見交換をし思考を深めましょう。 日頃から地域の健康課題や施策に関する動向について関心を持つように心掛けましょう。				
使用テキスト	中谷芳美他：標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 第 5 版 医学書院 2024 八訂 食品成分表 2026 女子栄養大学出版社				
参考書	田中逸：健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病 第 3 版 日本医事新報社 2025 菱田明他：保健指導で高血圧パラドックスの解消へー保健指導の現場の疑問に答える 東京医学社 2020				

対象学生	地域看護学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	産業保健活動論 T23005			後期	講義・演習	1				
担当教員	山田 恭久									
授業の概要	職域における働く人々の健康に関する諸問題を概観し、作業環境や労働条件が健康に及ぼす影響を考え、保健専門職として行う個人・集団・組織への支援について体系的に学習する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健の目的・目標およびそれを達成するための労働安全衛生体制を述べることができる。 2. 産業保健師の機能を学び、それが職域でどのように活かされているのか述べるができる。 3. 産業保健の課題と対策を学び、現場でどのように展開されているのかがわかる。 4. 産業保健チームの一員としての産業保健師の役割を考えることができる。 									
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3							
		○								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国における産業保健・産業看護の現状と動向 2. 労働衛生の基礎知識（労働者の健康障害のメカニズムと対策、労働安全衛生関連法規など） 3. 労働衛生管理業務の概要（職業性疾病と業務関連疾患、職場巡視について） 4. 健康管理業務の概要（健康診断の種類および事後措置、保健指導、健康相談、健康教育など） 5. 産業看護活動の実際・産業保健活動における保健師の役割 6. 産業保健におけるメンタルヘルス対策（労働者のメンタルヘルス支援、職場復帰支援、長時間労働対策など） 7. 産業保健をめぐる課題（女性労働者の健康管理、治療と職業生活の両立支援、中小事業場の健康管理など） 8. 産業保健の最近の話題・まとめ 									
事前・事後学習について	<p>事前学習：毎回、教科書の該当する項を読む。</p> <p>事後学習：授業でわからなかったことを教科書、配付資料で確認し理解する。</p>									
準備学習に必要な時間	事前学習、事後学習ともに各 30 分									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	100	講義内容の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	講義の中で、事前学習および事後学習における質問にお答えします。必要に応じて、試験の解説を行います。									
使用テキスト	<p>「必携 産業保健看護学ー基礎から応用・実践までー」第2版</p> <p>編者：公益社団法人 日本産業衛生学会 産業保健看護部会 編集委員会</p> <p>発行所：公益財団法人 産業医学振興財団</p>									
参考書	「令和8年度 労働衛生のしおり」中央労働災害防止協会									

対象学生	地域看護学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	学校保健活動論 T23006			前期	講義・演習	1			
担当教員	澤田 有香								
授業の概要	学校教育における学校保健の位置づけ、学校保健の目的、制度とシステム、健康状況と課題等を学ぶことを通して、小児期・青年期の学校という場における健康支援の考え方および方法を理解する。演習を通じて理解を深め、学校保健と公衆衛生看護の連携のあり方を考える。								
到達目標	1. 学校保健の概要を述べることができる。 2. 学校保健における養護教諭の位置づけと活動を述べるができる。 3. 公衆衛生看護と学校保健との連携の現状と課題を述べるができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	1. 学校保健の概要と養護教諭 学校教育と学校保健、文部科学行政の仕組み、学校保健の目的と領域構造 学校保健関係者（養護教諭・保健主事他）保健組織活動 養護教諭の歴史と職務 2. 学校保健計画 学校保健計画の意義・内容・運営 3. 保健教育 保健教育の領域構造、教育課程における保健教育、学習指導要領、 特別活動における保健の指導、保健指導 4. 保健管理① 健康診断 5. 保健管理② 健康観察、健康相談、疾病管理 6. 保健管理③ 感染症予防、学校環境衛生 7. 保健室と保健室経営 8. 学校安全、学校給食 まとめ								
事前・事後学習について	事前学習：各自の小・中・高等学校における保健活動を思い出し、整理してきてください。 事後学習：授業で学んだ内容を確認してください。その際、保健師として学校保健と連携する際の関わり方を考えてください。								
準備学習に必要な時間	事前学習：各自の小・中・高等学校における保健活動を思い出し、整理してくる（30分程度）。 事後学習：授業で学んだ内容を整理し、保健師として学校保健と連携する際の活用法を考えてくる（20分程度）。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	30	小テストの実施						
	実践	70	演習への取組						
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	各回、プリントを準備します。内容をしっかりと理解してください。 グループで話し合いをします。積極的に参加してください。								
使用テキスト	「公衆衛生がみえる 2026-2027」医療情報科学研究所(編) メディックメディア								
参考書	適宜紹介								

対象学生	地域看護学専攻 1		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	母子公衆衛生看護活動論 T23007		通年	講義・演習	2					
担当教員	北林 ちなみ・木下 ひとみ・新海 シズ・佐野 葉子									
授業の概要	地域における母子保健の現状を知り、活動の理念と方法について学ぶ。母子の健康課題やそれを支えるシステムや保健指導の実際をライフサイクルの視点から理解する。母子に関わる多様な健康課題への支援について学ぶ。									
到達目標	1. 地域における母子保健の現状を理解できる。 2. 地域母子保健活動の理念と健康を支えるシステム、保健指導の実際を理解できる。 3. 母子に関わる多様な健康課題と支援の現状を理解し、課題解決を考えることができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 母子保健活動の動向・女性への健康支援 2. 女性のライフサイクル各期の健康課題と支援 3. 乳幼児の成長・発達と健康課題への支援 4. 乳幼児健康診査に必要な知識・技術 5. 支援ニーズが高い親子の健康課題と支援 6. 月齢ごとの乳児の成長発達に応じた支援①（2 か月児・4 か月児・7 か月児） 7. 月齢ごとの乳児の成長発達に応じた支援②（10 か月児・12 か月児） 8. 母子包括ケアシステムにおける行政保健師活動の実際（特別講師） 9. 地域子育て支援拠点施設を利用する親子の実際（わいわいひろば） 10. 地域子育て支援拠点施設の利用と連携の実際（特別講師） 11. 地域における助産師との連携の必要性の理解（特別講師） 12. 母子特化型訪問看護ステーションの活動と連携の必要性の理解（特別講師） 13. 母子および親子を対象とした地域保健活動～市町村実習をとおしての学び① 14. 母子および親子を対象とした地域保健活動～市町村実習をとおしての学び② 15. 乳幼児の成長・発達と保健指導① 16. 乳幼児の成長・発達と保健指導② 17. 乳幼児の成長・発達と保健指導③ 18. 乳幼児の成長・発達と保健指導④ 19. 乳幼児の成長・発達と保健指導⑤ 20. 母子の食生活① 21. 母子の食生活② 22. 母子の食生活③（調理実習） 23. 母子の食生活④（調理実習）									
事前・事後学習について	事前学習：事前に示す授業計画のテキスト該当頁を読んで講義に臨んでください。 その他、適宜提示する課題に取り組みましょう。 事後学習：毎回の講義・演習の復習をしましょう。さらに演習で学んだ知識・技術は自分のものとして実習に活用できるための整理をしておきましょう。 日常生活の中で、現在の子育て事情に関心をもって過ごし、講義内容と連動させて思考してみましょう。									
準備学習に必要な時間	事前学習：1 時間程度 事後学習：1 時間程度									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	70	講義内容の理解							
	実践	10	演習の成果、演習への参加姿勢							
	レポート	20	課題提出状況、提示した内容との整合性							
その他	0									
受講上の注意・課題のフィードバック	講義・演習の中で、事前・事後学習に関する質問にお答えします。必要に応じて、試験の解説をします。その中で、自己課題を確認して、理解を深めておきましょう。 疑問・質問には随時対応します。									
使用テキスト	中谷芳美他、標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 第 5 版 医学書院, 2024 写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法, 第 10 版, 前川喜平他, 南山堂, 2022 乳幼児健診マニュアル 第 7 版, 福岡地区小児科医会乳幼児保健委員会編, 医学書院, 2025 国民衛生の動向 2024/2025, 厚生統計協会									
参考書	井伊久美子他：[新版] 保健師業務要覧 第 4 版 2025 年版, 日本看護協会出版会 公衆衛生がみえる 2024-2025, 医療情報科学研究所編, メディックメディア, 2024 国民の福祉と介護の動向 2024/2025, 厚生統計協会									

対象学生	地域看護学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	成人公衆衛生看護活動論 T22008			通年	講義	2			
担当教員	代田 とみ子・青木 恵子								
授業の概要	成人期における健康課題を包括的に捉え、公衆衛生看護活動の理念に基づき、健康を自立的に維持・増進させるための援助方法について学ぶ。								
到達目標	1. 成人期の各期における健康課題の特徴を述べるができる。 2. 健康支援体制、関係法制度、保健指導方法について述べるができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	1. 生活習慣病の発生機序①保健指導のために必要なく体・疾患の知識と捉え方>を考える 2. 生活習慣病の発生機序②どのように脂肪は蓄えられるのか 3. 生活習慣病の発生機序③動脈硬化はどのように起こるのか 4. 生活習慣病の発生機序④血圧値はどのようにして決まるのか 5. 生活習慣病の発生機序⑤メタボリックシンドロームにより何が起こるのか 6. 生活習慣病の発生機序⑥体の中で起こっていること（健診データ）を説明しよう 7. 成人期の特徴・成人保健の動向（統計データ・健康づくり対策） 8. 成人期の保健活動①がん対策・データヘルス計画 9. 成人期の保健活動②特定健康診査・特定保健指導 10. 成人期の保健活動③特定健康診査・特定保健指導 11. 難病保健活動 12. 障害者（児）保健活動 13. 家庭訪問における特定保健指導（家庭訪問計画立案について）① 14. 家庭訪問における特定保健指導（家庭訪問計画立案について）② 15. 成人を対象とした地域保健活動～市町村実習を通しての学び								
事前・事後学習について	事前学習：事前に示す授業計画のテキスト該当頁を読んで講義に臨んでください。その他適宜提示する課題に取り組みましょう。 事後学習：毎回の講義・演習の復習をしましょう。さらに演習で学んだ知識・技術は自分のものとして実習に活用できるための整理をしておきましょう。日常生活の中で自分の価値観とは違う他者の生活習慣に関心を寄せ、生活習慣と健康の関係について講義の内容と連動させて思考してみましょう。								
準備学習に必要な時間	事前学習：30分～1時間程度 事後学習：30分～1時間程度								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	60	講義内容の理解						
	実践	40	演習の成果、演習への参加姿勢						
	レポート	0							
その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	講義・演習の中で、事前・事後学習に関する質問にお答えします。必要に応じて、試験の解説をします。その中で、自己課題を確認して、理解を深めておきましょう。 疑問・質問には随時対応します。								
使用テキスト	中谷芳美他 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 第5版,医学書院,2024 田中逸,健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病 第2版,日本医事新報社,2018 国民衛生の動向2024/2025,厚生統計協会 菱田明他,保健指導で高血圧パラドックスの解消へー保健指導の現場の疑問に答える,東京医学社,2020								
参考書	公衆衛生がみえる2024-2025,医療情報科学研究所編,メディックメディア 国民の福祉と介護の動向2024/2025,厚生統計協会								

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	高齢者公衆衛生看護活動論 T22009	通年	講義	2	
担当教員	木下 ひとみ・岩瀬 彩香				
授業の概要	高齢期における健康課題を包括的に捉え、公衆衛生看護活動の理念に基づき、健康を自立的に維持増進させるための援助方法について学ぶ。				
到達目標	1. 高齢期の各期における健康課題の特徴を述べることができる。 2. 健康支援体制、関係法制度、保健指導方法について述べるができる。				
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
		○			
授業計画	1. 高齢者の保健医療福祉の動向 (1) 高齢化の進展とその背景、高齢者の健康課題 2. 高齢者の保健医療福祉の動向 (2) 高齢者保健・福祉施策の変遷とその概要 3. 介護予防活動 (1) 介護予防の考え方・基盤となる施策 4. 介護予防活動 (2) 介護予防(支援)における保健師の役割と活動の展開 5. 地域包括支援センターにおける保健師活動 6. 認知症高齢者と家族への支援 7. 地域福祉における高齢者の生活の現状と課題 (特別講師) 8. 介護保険制度の現状と課題 (特別講師) 9. 権利擁護にかかわる現状と課題 (特別講師) 10-11. 高齢者を対象とした保健師活動 (特別講師) 12-13. 高齢者を対象とした地域保健活動～市町村実習を通しての学び (岩瀬彩香担当範囲) 14-15. 高齢者の食生活				
事前・事後学習について	事前学習：「国民衛生の動向 2024/2025」を通読していることを前提に講義を進めます。 事後学習：各授業で学んだ内容の振り返りをしましょう。日頃から社会情勢に関心を持ち、高齢期の人々の健康課題との相互関連について考え、授業で学んだことの理解を深めてください。また、身近な市町村においてどのような保健事業が行われているか調べ、それらの根拠となる法制度とも関連させて学びを深めてください。				
準備学習に必要な時間	事前学習：テキスト等の通読、課題の取り組みなど1時間程度。 事後学習：授業の振り返り、社会情勢・身近な市町村での保健事業との関連の整理など、1時間程度。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	80	講義内容に関する知識、理解		
	実践	0			
	レポート	20	高齢者を対象とした保健活動・食生活・栄養に関する思考、判断		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	事前学習をして授業に臨み、グループワークでは活発な意見交換をしましょう。				
使用テキスト	中谷芳美他：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 第5版 医学書院 2024 国民衛生の動向 2024/2025 厚生労働統計協会 国民の福祉と介護の動向 2024/2025 厚生労働統計協会				
参考書	公衆衛生がみえる 2024-2025 医療情報科学研究所編 メディックメディア 井伊久美子他：[新版] 保健師業務要覧 第4版 2025年版 日本看護協会出版会				

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	精神公衆衛生看護活動論 T22010	前期	講義	2	
担当教員	岩崎 みすず				
授業の概要	精神保健上の課題を抱えながら生活する人々やその家族への理解を深めること、また、精神保健上の課題が生じる社会的背景について考えることを通して、地域における精神保健福祉活動の理念や動向・保健師の役割等について学びます。				
到達目標	精神保健上の課題を抱えながら地域で生活する人々とその家族を理解する。 精神保健上の課題を抱える人々に対する、保健師を中心とする看護職の役割を理解し、人々の生活の様子や生活のしづらさに思いを寄せながら支援を考えることができる。				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○			
授業計画	1. 精神公衆衛生看護活動とはなにか 2. 精神保健の歴史／精神障害者の人権 3. 精神保健福祉医療施策 4. 精神障害者の地域生活の継続／精神保健医療福祉における保健師の支援 5. 精神障害の理解①（統合失調症 1） 6. 精神障害の理解②（統合失調症 2） 7. 精神障害の理解③（うつ病） 8. 精神障害の理解④（双極性障害） 9. 精神障害の理解⑤（その他 1） 10. 精神障害の理解⑥（その他 2） 11. 精神障害の理解⑦（心の健康課題と支援） 12. 精神障害者と家族 13. 精神障害と回復 14. 感情と看護 15. まとめ				
事前・事後学習について	精神障害（者）を取り巻く状況や精神疾患の知識があることを前提に、提示した資料をもとにグループで話し合う機会を多く持ちます。資料は事前に配付しますのでよく読み込んで授業に臨み、活発な意見交換をしましょう。				
準備学習に必要な時間	事前に配付する資料を読んで、指示された内容について考えをまとめてくることに 1～2 時間程度必要です。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	0			
	レポート	90	精神保健上の課題を抱えながら生活することに心を寄せる・地域生活継続のために必要な資源とその活用の理解		
	その他	10	授業への参加姿勢		
受講上の注意・課題のフィードバック	配付する資料を読んでから授業に臨み、グループ内で活発な意見交換をしましょう。グループの意見はお互いに授業内に発表し合います。				
使用テキスト	・精神障害の理解に関しては資料を適宜配付 ・松田正己他著：標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 第 4 版，医学書院				
参考書					

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	公衆衛生看護管理論 T23011	通年	講義・演習	1	
担当教員	代田 とみ子				
授業の概要	地域の健康課題を住民、関係機関、他職種との連携・協働により組織的に解決するために、必要な調整・企画・運営・評価・社会資源の開発といった公衆衛生看護管理能力全般に関する知識と態度を学ぶ。				
到達目標	1. 公衆衛生看護管理の目的を理解できる。 2. 公衆衛生看護管理の各機能の特徴とその連動関係を理解できる。 3. 保健師が新任時期から担う公衆衛生管理の内容とその意義について理解できる。 4. 健康危機管理機能が重視されるようになった背景を理解できる。				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
		○			
授業計画	1.2 公衆衛生看護管理の基本 新任期から担う公衆衛生看護機能 3.4 健康危機管理の基本 保健師が担う感染症保健活動 5.6 保健師が担う災害保健活動 7. 地域拠点病院における具体的活動について保健師の視点から考える① 8. 地域拠点病院における具体的活動について保健師の視点から考える② 9. 健康危機管理の実際① 講義 10. 健康危機管理の実際② 災害発生時のシミュレーション 11. 健康危機管理の実際③ 避難所設営演習 12. 保健所保健師の公衆衛生看護管理の実際①～保健所保健師のお話から考える～ 13. 保健所保健師の公衆衛生看護管理の実際②～保健所保健師のお話から考える～ 14. 市町村保健師の公衆衛生看護管理の実際を振り返る①～市町村実習の学びから考える～ 15. 市町村保健師の公衆衛生看護管理の実際を振り返る②～市町村実習の学びから考える～				
事前・事後学習について	事前学習：事前に示す授業計画のテキスト該当頁を読んで講義に臨んでください。 その他、適宜提示する課題に取り組みましょう。 事後学習：毎回の講義・演習の復習をしましょう。レポート課題が提示された際は、授業内容の羅列ではなく授業を通して自分が何を思考し、それはどのような学びにつながったかを論理的に述べましょう。 生活者の視点で、常日頃から行うべき健康危機管理とは何かについて関心をもって過ごしましょう。				
準備学習に必要な時間	事前学習：1時間程度 事後学習：1時間程度				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	0			
	レポート	90	講義・演習を通して学んだ公衆衛生看護管理の特色、実際と課題		
	その他	10	受講姿勢		
受講上の注意・課題のフィードバック	提示したレポート課題について添削し、授業内で全体の課題を伝えていきます。そこから各自、自己課題を確認していきましょう。疑問・質問に関しては、適宜対応します。				
使用テキスト	標美奈子他：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 第6版 医学書院 井伊久美子他：[新版]保健師業務要覧第4版 2025年版 日本看護協会出版				
参考書					

対象学生	地域看護学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	疫学	T 22012		前期	講義	2			
担当教員	北山 秋雄・吉川 佳予子								
授業の概要	疫学とは人間集団の健康現象の成り立ちを解明し、集団の健康を維持増進するための対策立案をする学問である。従って公衆衛生、地域保健・看護にとってなくてはならない武器となる。その疫学の歴史と方法論、及び研究・調査の正しい評価方法について学ぶ。								
到達目標	毎回の授業の終わりに練習問題を解き、その日の内容を完全に理解出来るようにする。何より保健師国家試験に合格出来る学力を身につけることが重要である。加えて、疫学的な考え方は医学看護学の基本となるものであるから、そのような研究姿勢を養う。								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	(吉川) 1. 疫学の定義と基本概念 2. 疫学の歴史 (スノウ、ゼンメルワイス、高木兼寛、etc.) 3. 因果関係 4. 疾病頻度 I (割合・率・比・罹患率・有病割合) 5. 疾病頻度 II (死亡率・年齢調整標準化・相対頻度) 6. 曝露効果 7. 偏りと交絡因子 8. スクリーニング (北山) 9. 疫学研究のタイプ I ～記述疫学、症例・対照研究～ 10. 疫学研究のタイプ II ～コホート研究、介入研究～ 11. 感染症の疫学 I 12. 感染症の疫学 II 13. 生活習慣病の疫学 I 14. 生活習慣病の疫学 II 15. まとめ								
事前・事後学習について	事前学習：指定図書の該当箇所を事前に読んでおきましょう。 事後学習：授業で渡されたプリントを復習し、指定図書の該当問題も解いておきましょう。								
準備学習に必要な時間	教科書を読む、ニュースを記録するといった事前学習のために 30 分～1 時間は割いて欲しい。 プリントの読み返し、ノート整理等の事後学習にも 30 分～1 時間を充てること。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	100	試験						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	分からないことは積極的に質問してください。 また、国家試験問題は完璧になるまで繰り返し解きましょう。								
使用テキスト	「基本からわかる看護疫学入門」 第三版 大木秀一 医歯薬出版 2020 国民衛生の動向 2022/2023 厚生統計協会								
参考書	「はじめて学ぶやさしい疫学―疫学への招待―」 日本疫学会監修 南江堂 「感染症予防必携」 山崎修道他 日本公衆衛生協会								

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	保健統計学 I T23013	前期	講義・演習	1	
担当教員	宮澤 傳二・三浦 弥生				
授業の概要	保健統計学の概念を理解し，地域保健，地域看護活動に役立てる基礎的能力を養う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療分野で利用される保健統計学の基礎を理解する。 ・データの特徴に応じた保健統計的手法を理解している。 				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、保健統計学の概要、国民保健の概要 2. データの整理とグラフ表示 3. 代表値 4. 散布度 5. 相関と相関係数・回帰直線 6. 確率・順列・組み合わせ 7. 確率分布 8. 母集団の推定（1）標本抽出法・母平均の推定・母比率の推定 9. 母集団の推定（2）母相関係数・区間推定・標本設計 10. 仮説検定（1）母平均 母比率 二項検定 11. 仮説検定（2）平均値に関する検定（t 分布と t 検定），比率の差の検定 12. 仮説検定（3）ノンパラメトリック検定（適合度の検定と独立性の検定） 13. 分散分析法 14. 情報処理・管理の基礎 Microsoft Excel を利用した情報処理の基礎 15. 過去の国家試験問題を題材とした講義の復習 				
事前・事後学習について	<p>事前：テキストを読み予習しておく。</p> <p>事後：レポート課題等で復習する。</p>				
準備学習に必要な時間	1 時間前後				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	40	保健統計学に関する理解度		
	実践	40	講義内容の理解度と取り組み状況		
	レポート	20	課題への取り組み状況と完成度		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題は、添削をして返却します。				
使用テキスト	縣俊彦著，やさしい保健統計学，南江堂 改訂第 5 版 増補，2019 年				
参考書	丸井英二著，最新保健学講座 6 疫学・保健統計，メヂカルフレンド社 福富和夫他著，ヘルスサイエンスのための基本統計学，南山堂				

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	保健統計学Ⅱ T23014	通年	演習	2	
担当教員	北山 秋雄・秋山 剛				
授業の概要	本科目では、保健統計学の基本、すなわち、「保健統計の概要」、「保健統計を読む際の諸注意」、「保健指標の見方」、「データ収集と解析法」について学習する。				
到達目標	保健師活動のための有効な情報収集の方法や情報処理・統計処置に活用できる実践能力を身につける。				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
		○			
授業計画	<p>(北山)</p> <p>1-2. 健康情報における保健統計の位置づけ</p> <p>3-4. 保健統計の意義と目的</p> <p>5-7. 保健統計調査の実際</p> <p>8-11. 統計学の基礎 (母集団と標本調査、データ表示法)</p> <p>12-13. 統計学の基礎 (主な分布の種類、関係の指標)</p> <p>14. 統計学の基礎 (代表値と散布度、推定と検定)</p> <p>(秋山)</p> <p>15-16. エクセルによる記述統計①</p> <p>17-18. エクセルによる記述統計②</p> <p>19-20. エクセルを用いた標準化と推定</p> <p>21-22. エクセルを用いた検定①</p> <p>23-24. エクセルを用いた検定②</p> <p>25-26. 3群以上の検定、統計ソフトの活用</p> <p>27-28. 国家試験対策①</p> <p>29-30. 国家試験対策②</p>				
事前・事後学習について	事後学習：演習で行ったことを次の授業までに振り返っておきましょう。				
準備学習に必要な時間	事後学習には30分～1時間程度の時間を要します。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	100	毎回の授業参加度と課題提出で行う		
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことがあれば遠慮なく質問してください。				
使用テキスト	尾島敏之他：保健学講座4 疫学/保健統計 第1版 メジカルフレンド社 2022年				
参考書	<p>ヘルスサイエンスのための基本統計学 南山堂 本体2800円</p> <p>量的な「看護研究のきほん」 医師薬出版株式会社 本体2800円</p> <p>すぐわかるSPSSによるアンケート調査・集計・解析 東京図書 本体2800円</p>				

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	保健医療福祉行政論 I T22015	通年	講義	2	
担当教員	武分 祥子・松岡 裕之				
授業の概要	<p>社会保障・社会福祉の歴史と制度について学ぶと共に近年における改革の方向を考えながら、それぞれの制度が果たしている役割について学習する。</p> <p>さらに公衆衛生と保健衛生行政の概要を踏まえ、保健医療福祉行政における保健師活動の実際と保健と医療と福祉の連携について学ぶ。</p>				
到達目標	<p>①社会福祉や保健衛生及び医療保険制度が具体的にどのようなように展開されているか、それぞれの制度を担う行政機関の役割について学ぶとともに事業の内容について理解することができる。</p> <p>②保健師として関連する他の専門職種とどう連携すべきか具体的事例を検討しながら考えることができる。</p>				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○	○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉行政のめざすもの 2. 保健医療福祉制度の変遷① 3. 保健医療福祉制度の変遷② 4. 保健医療福祉制度の変遷③ 5. 保健医療福祉財政・財政の理念と仕組み①ー国・都道府県・市町村の行政のしくみと役割ー 6. 保健医療福祉財政・財政の理念と仕組み②ー保健医療福祉の財政ー 7. 社会保障制度としくみ 8. 医療提供施設 9. 社会保障・社会福祉の制度 10. 成年後見制度と日常生活自立支援事業 11. 地域保健の体系① 12. 地域保健の体系② 13. 保健医療福祉の計画と評価① 14. 保健医療福祉の計画と評価② 15. 保健医療福祉の計画と評価③ 				
事前・事後学習について	<p>事前：各市町村では長期総合計画が立てられ、具体的に実施されていますが、保健・医療・福祉の長期計画（10年）もこの中に入っています（独自に計画されている市町村もあります）。当該市町村の図書館又は広報担当課には必ずおかれていますので（いただける場合が多いです）気軽にたずねてみてください。</p> <p>なお、次の授業範囲のテキスト該当箇所を必ず一読しておいてください。</p> <p>事後：授業を振り返ってまとめをしてください。</p>				
準備学習に必要な時間	<p>授業計画を参照して、事前にテキストの該当範囲を熟読してください(30分～1時間)。</p> <p>前回の授業を振り返った上で授業に参加してください(30分)。</p>				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	0			
	レポート	90	課題にのっとって提出できているか		
	その他	10	授業全体の取り組み状況		
受講上の注意・課題のフィードバック	<p>レポートは返却し、できたところ及び不足しているところ等が学生に分かるように伝えます。分からないところは授業の随所で投げかけて確認するので、必ず応答するよう望みます。</p>				
使用テキスト	<p>標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論最新版 医学書院</p> <p>国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計協会, 最新版</p> <p>国民衛生の動向 厚生労働統計協会, 最新版</p>				
参考書	無し				

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	保健医療福祉行政論Ⅱ T23016	後期	講義・演習	2	
担当教員	隣谷 正範・木下 ひとみ				
授業の概要	国民の生命、生活と権利を守るための社会福祉と社会保障の理念と制度及び課題について学ぶ。地域における保健医療福祉および行政間のネットワークの必要性とその実際について学ぶ。				
到達目標	現代社会は人口減少、少子高齢社会となり貧困と格差、子どもの虐待等が広がる生きにくい社会となっている。家庭の養育力・介護力の低下は子育てや高齢者の介護を困難にしている。国民の生活と権利を支える社会福祉と社会保障の現状と特徴を理解し、高齢社会に対応するための課題について学ぶ。				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○	○			
授業計画	<p>【隣谷】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉・社会保障とは何か (私たちの暮らしと社会福祉・基本理念(対人支援の基本を含む)、社会保障制度の全体像等) 2. 人口減少・少子高齢化社会の現状と課題 (人口減少、少子化・超高齢化社会の変化と特徴、日本の将来推計人口と社会問題等) 3. 現代社会にみる貧困の姿と生活保護制度 (豊かな国日本の貧困の広がり和社会福祉の役割、生活保護制度の目的と役割・課題等) 4. 社会保障給付費の増大と医療保険・年金制度 (社会保障給付費の動向と国民負担、医療保険制度・年金制度の概要と給付水準等) 5. 子ども家庭福祉の理念と子どもの権利(児童虐待を含む) (子ども家庭福祉の理念と子どもの貧困と権利、子ども虐待の現状等) 6. 高齢者福祉の理念と超高齢社会の現状と課題 (高齢者福祉の理念と超高齢社会の現状、高齢者虐待・認知症高齢者への社会的支援等) 7. 高齢者福祉と介護保険制度の役割、課題 (介護保険制度の創設の背景と目的、介護保険制度の仕組みとサービスの内容等) 8. 障害者福祉の理念と障害者福祉サービスの方向性 (障害者福祉の理念・制度と障害者の実態、障害者福祉の方向性と障害児の福祉等) 9-10. 現代社会の家族の特徴と家族を支える地域ネットワークの役割 (家族を支える事例研究①: 演習) 11-12. 高齢者の生活問題と家族を支える地域ネットワークの役割 (高齢者と家族を支える実践の事例研究②ほか: 演習) <p>【木下】</p> <ol style="list-style-type: none"> 13-14. 保健医療福祉における事業化と施策化 15-16. 地域包括ケアシステムの構築とネットワーク化 17-18. 行政職員としての保健師の在り方 19-21. 医療制度の概要、地域における医療供給体制の現状および医療-保健-福祉の連携 22-23. 医療機関と行政が行う子どもの貧困支援 				
事前・事後学習について	授業内容に沿って、テキストによる関連項目の学習と事前配布資料の下調べ学習に取り組む。事後学習については授業内容に関する「考察レポート」を提出課題とするので作成してまとめの学習とする。				
準備学習に必要な時間	テキスト及び事前配布資料の学習(毎回1時間) 「考察レポート」の作成(毎回30分程度)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	80	授業内容の基本的事項に対する理解度について評価する		
	実践	0			
	レポート	20	授業内容の理解と自分なりの考察、意見について評価する		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	毎回、授業内容説明資料を配布してこれにそって授業を進めます。 毎回、説明資料に国家試験対策の演習問題を記載し、受験対策の支援とします。 授業後学生は「考察レポート」作成し次週の講義日に提出してください。評価の対象となるので留意しましょう。				
使用テキスト	福田素生他 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院 標美奈子他: 標準保健師講座1 公衆衛生看護概論 第6版 医学書院 中村裕美子他: 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第5版 医学書院				
参考書	国民の福祉と介護の動向 最新版 厚生労働統計協会				

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	公衆衛生看護学実習 T24017	通年	実習	7	
担当教員	青木 恵子・代田 とみ子・木下 ひとみ				
授業の概要	市町村役場や保健福祉事務所における行政保健師活動を経験することにより、地域住民への質の高いサービスを提供できる公衆衛生看護活動の実践能力を身につける。また、行政以外の活動の場である医療機関や事業所の見学実習を通して、病院保健師活動および産業保健師活動の理解を深める。さらに、養護教諭を中心とした学校保健活動や、地域の福祉施設の見学を行い、地域における関係機関との連携と保健師の役割を理解する。 本実習は実務家教員の授業で、看護師・保健師免許を有する教員が担当する科目である。看護、医療に関する実務家としての視点、保健師の経験を交えて、学生に対して授業を展開していく。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市町村における保健師活動の理念と方法を述べることができる。 2. 保健福祉事務所の役割機能を理解し、保健所保健師活動の理念と方法を述べるができる。 3. 医療施設における保健師活動の実際を理解し、住民への健康支援のあり方を述べるができる。 4. 事業所における産業保健活動の実際を理解し、働く人々への健康支援のあり方を述べるができる。 5. 地域の教育機関および福祉施設の役割と保健師のかかわりを理解し、住民への健康支援のあり方を述べるができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○	○		
授業計画	<p>実習内容 詳細は「公衆衛生看護学実習要項」参照</p> <p>[市町村実習] 実習時期：8～9月、10月 実習施設：飯田下伊那地域 市町村役場 実習方法：(1) 8～9月 1) 学生が実習先に出向き、地域診断のための情報収集を行う。 得られた情報は記録用紙に整理して記録し、アセスメントを行い、実習先の顕在・潜在する健康課題を把握する。 2) 学内で乳児家庭訪問および健康教育を行う。 教員および学生を住民に見立てたロールプレイを行う。 (2) 10月 1) 事前学習とオリエンテーションを踏まえ、1実習施設に1～2名の学生が出向き、実習施設の指導保健師から指導を受ける。事後学習を学内で行う。</p> <p>[保健福祉事務所実習] 実習時期：11月 実習施設：飯田保健福祉事務所 実習方法：事前学習とオリエンテーションを踏まえ、学生全員が実習施設に出向き、実習施設の保健師から指導を受ける。事後学習を学内で行う。</p> <p>[医療施設見学実習] 実習時期：8～9月 実習施設：飯田市立病院 実習方法：事前学習とオリエンテーションを踏まえ、学生全員が実習施設に出向き、実習施設の指導保健師と医療スタッフから指導を受ける。</p> <p>[事業所見学実習] 実習時期：12月 実習施設：セイコーエプソン株式会社 実習方法：事前学習とオリエンテーションを踏まえ、学生全員が実習施設に出向き、実習施設の指導保健師等から指導を受ける。</p> <p>[学校保健見学実習] 実習時期：9月 実習施設：飯田女子高等学校、伊那西高等学校 実習方法：1. 事前学習とオリエンテーションを踏まえ、各実習施設に7～8名の学生が出向き、実習施設の指導担当者から指導を受ける。</p> <p>[福祉施設見学実習] 実習時期：8～9月 実習施設：飯田児童相談所、飯田市子ども発達センターひまわり、南信地域活動支援センター 実習方法：事前学習とオリエンテーションを踏まえ学生全員が実習施設に出向き、実習施設の指導担当者から指導を受ける。</p>				
事前・事後学習について	<p>事前：各実習内容に該当する授業・演習の振り返りを行い、自己課題を明確にして実習に臨みましょう。 各実習施設・実習内容に応じた課題が提示されます。 適宜、必要な情報等を自分で集め、充実した学びになるよう準備しましょう。</p> <p>事後：各実習内容での記録を整理し、学びをまとめましょう。</p>				
準備学習に必要な時間	上記内容が実施できるための時間を確実に確保していきましょう。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	90	実習記録		
	レポート	0			
	その他	10	実習への取り組み姿勢		
受講上の注意・課題のフィードバック	実習前および実習中の教員や指導者からの指導をもとに自己課題を整理し、それが解決できるように実習に取り組みましょう。また、カンファレンスや学内での報告会での他者の学びや意見も参考に、自分の学びを深めましょう。疑問・質問には適宜対応します。				
使用テキスト	全教科のテキスト				
参考書					

対象学生	地域看護学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	公衆衛生看護学研究 I T23018			前期	講義・演習	1			
担当教員	三浦 弥生・代田 とみ子・木下 ひとみ								
授業の概要	公衆衛生看護学研究は、学問領域の発展と公衆衛生看護活動の質の向上、さらに保健師という看護専門職者の人間的成長に貢献するという意義を持ちます。ここでは、研究的視点を持って公衆衛生看護の業務を担う基礎的知識としてレポート・論文作成の基礎を実践をもとに学びます。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート・論文の基本的な作成方法が理解できる。 2. レポート・論文作成に必要な文献検索・引用方法が理解できる。 3. 看護研究をするうえでの思考の組み立て方が理解できる。 4. 研究的視点をもって業務を行うことの必要性が理解できる。 								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
			○						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究のレポート・論文作成に取り組む意味 2. 看護課題の抽出・思考の組み立て 3. 文献検索・文献整理の方法 4. レポートの書き方とルール：①題名・定義・引用方法・事実と意見の区別・盗用と剽窃 5. レポートの書き方とルール：②パラグラフ・わかりやすい文章の書き方・要旨 6. レポートを書く：①看護課題の抽出・テーマの決定 7. レポートを書く：②調べる（下調べ/文献検索/文献入手） 8. レポートを書く：③思考の組み立て（序論/主題文のアウトラインの作成/仮の題名） 9. レポートを書く：④パラグラフの構造と連結・キーワードとの整合性 10. レポートを書く：⑤主題文（引用と意見の書き方） 11. レポートを書く：⑥結論 12. レポートを書く：⑦要旨の作成 13. レポートを書く：⑧点検 14. レポートを書く：⑨まとめ 15. レポートの報告 								
事前・事後学習について	授業の進行に合わせて事前・事後課題を出します。関心のあるテーマの文献を検索し、読み込んだり、それを整理してまとめたりするなどです。主体的に研究を進められるように頑張りましょう。								
準備学習に必要な時間	上記内容を確実にこなせる時間を確保していきましょう。個別ワークが中心になりますので、必要に応じて担当教員に相談し、自分の進捗状況に応じた時間が確保できているかを確認しながら進めてきましょう。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	90	レポートの内容・レポート作成の基本の理解						
	その他	10	授業態度・意欲						
受講上の注意・課題のフィードバック	個別指導の中で、随時担当教員がそれぞれの課題について提示し、学習が深まることを目指します。研究過程で生じる疑問・質問については積極的に担当教員へ尋ねてきてください。								
使用テキスト	坂下玲子他：系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 2023								
参考書	適宜紹介								

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	公衆衛生看護学研究Ⅱ T24019	後期	演習	2	
担当教員	代田 とみ子・三浦 弥生・木下 ひとみ				
授業の概要	公衆衛生看護学研究は、学問領域の発展と公衆衛生看護活動の質の向上、さらに保健師という看護専門職者の人間的成長に貢献するという意義を持ちます。研究的視点を持って業務を行うことの必要性を理解し、研究への実践能力を育成することを目指して、公衆衛生看護活動における研究の意義と研究手法の基礎的知識等を学びます。				
到達目標	1. 研究的視点をもって業務を行うことの必要性が理解できる。 2. 研究手法の基礎的知識が理解できる。 3. 研究計画書が作成できる。				
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
			○		
授業計画	1. 看護研究とは 2. 看護研究の進め方：①リサーチエッセッション 3. 看護研究の進め方：②文献レビューとその方法・倫理的配慮 4. 看護研究の進め方：③研修デザイン 5. 看護研究の進め方：④データの収集・データ分析 6. 看護研究の進め方：⑤研究計画書の作成 7. 研究計画書の作成：①リサーチエッセッション 8～15. 研究計画書の作成：②文献レビューとその方法・倫理的配慮 16～20. 研究計画書の作成：③研究デザイン 21～23. 研究計画書の作成：④データの収集・データ分析 24～26. 研究計画書の作成：⑤まとめ 27～30. 研究計画書の発表 ※1～6 を市町村実習前に開講し、8～30 を市町村実習終了後に開講します。				
事前・事後学習について	研究計画書を完成させ、パワーポイントによる発表を行います。授業時間に教員とのやりとりがスムーズにすすむように、研究の進行に合わせた事前・事後学習を行ってください。				
準備学習に必要な時間	市町村実習等において、看護研究のリサーチエッセッションとなる課題に注目していきましょう。グループワークや個別ワークが中心になります。必要に応じて担当教員に相談し、進捗状況に応じた時間が確保できているかを確認しながら進めていきましょう。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0	定期試験。学校における子どもの疾病・異常・予防の理解		
	実践	40	研究計画書の発表		
	レポート	50	研究計画書の内容		
	その他	10	取り組み姿勢		
受講上の注意・課題のフィードバック	研究計画書作成の過程で生じる疑問・質問については積極的に担当教員へ尋ねてください。				
使用テキスト	坂下玲子他：系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 2023				
参考書	適宜指示				

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	日本国憲法 T11020	後期	講義	2	必修
担当教員	長谷川 敬子				
授業の概要	<p>「法学入門及び憲法について」 現代のように自由と人権が保障された法制度のもとにあっても、民主政治を更に深めていくためには、市民が憲法に対して正しい理解を持ち、自らの手でより良い国をつくるために国政に参画してゆくことが不可欠である。このような民主政治を担う市民を教育する者にふさわしい憲法に対する常識の涵養を最小限度の目標とし、時間の許す範囲で女性の法的地位に対する考察を深める。</p> <p>本講義は実務家教員の授業で、現在弁護士である教員が担当する科目である。法律に携わる実務家としての視点を交えて、学生に対して授業を展</p>				
到達目標	日本国憲法に対する知識・理解を深め、主権者たる国民を教育する立場あるいは福祉に関わる立場においてその知識が生かせるようにする。				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
	○	○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. (1)はじめに (2)法律を学ぶ 2. (3)憲法とは何か (4)憲法の特質 3. (5)立憲主義と現代国家、法の支配 4. (6)国民主権の原理 (7)基本的人権の原理 5. (8)基本的人権の限界 6. (9)包括的基本権と法の下での平等 7. (10)精神的自由権 8. (11)経済的自由権、人身の自由 9. (12)受益権、参政権、社会権 (13)統治の原理1 10. (14)国家機関の見学ないしグループ研究 11. (15)国会、統治の原理2 12. (16)内閣 13. (17)裁判所 14. (18)地方自治 (19)憲法保障 15. (20)平和主義の原理 				
事前・事後学習について	<p>大教室での授業となるため、講義が主体とならざるを得ないが、法的な物の考え方に習熟してもらいたいので授業中に随時質問を行うことがある。</p> <p>事前に、使用テキストの予定する講義分野を読んでくること。</p> <p>事後に、もう一度読み直すことで、疑問点がでたら次の講義にぶつけてもらいたい。</p>				
準備学習に必要な時間	事前に1時間程度、事後に30分程度は、使用テキストの講義分野に目を通す				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	90	憲法ないし憲法的なものの考え方に関する知識の涵養度		
	実践	0			
	レポート	5	課題について適切に検討しているか		
	その他	5	授業に真摯に取り組んでいるか		
受講上の注意・課題のフィードバック	レポートについては、確認し、返却するので、りかいを確実にすること。				
使用テキスト	「伊藤真の憲法入門」 伊藤真 日本評論社				
参考書	<p>「憲法」伊藤正巳</p> <p>「憲法 第三版」芦部信喜、高橋和之改訂、岩波書店</p> <p>「世界の憲法集」阿部照哉、畑博行編、有信堂</p>				

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	体育 T11021	前期	講義・実技	2	
担当教員	高野 喜宏・三浦 弥生				
授業の概要	運動・スポーツの実践を通して、受講者の体力の向上や健康の維持・増進を図ることを目的とする。また、選択した種目について計画を立てることを通して、受講生自身が卒業後も自己の健康を維持・増進できるような主体的な姿勢を築くことを目標とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と協力してスポーツを行うことができる。 ・安全にスポーツを行う態度を身につけることができる。 ・スポーツのルールを理解して、実技内容を計画することができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
	○	○			
授業計画	1. 実技 オリエンテーション 2. 実技 選択実技 3. 実技 選択実技 4. 実技 選択実技 5. 実技 選択実技 6. 実技 選択実技 7. 実技 選択実技 8. 実技 選択実技 9. 実技 選択実技 10. 講義 健康とは？① 11. 講義 健康とは？② 12. 講義 感染症と健康① 13. 講義 感染症と健康② 14. 講義 食事と健康① 15. 講義 食事と健康② 16. 講義 運動と健康① 17. 講義 運動と健康② 18. 講義 休養と健康① 19. 講義 休養と健康② 20. 講義 心と健康① 21. 講義 心と健康② 22. 講義 心と健康③ 23. 講義 まとめ ※選択実技 バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ、ソフトバレー、ハイキング、バスケットボール、バレーボールの中から選択します。 ※授業の順番（実技と講義の組み合わせ等）は受講人数や受講者の希望、その日の天候等に合わせ、変更します。				
事前・事後学習について	選択実技では、学生の皆さんが計画を立てて運動を実施します。事前に選択した実技の方法やルール等を把握しておいてください。授業後は、計画が適切なものであったかを振り返り、どのようにすればよかったのかを検討してください。なお、受講人数や状況によってシラバスの内容が多少変更することがあります。				
準備学習に必要な時間	選択実技のルールを事前学習として調べてください（30分程度）				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	75	授業への参加態度、意欲、他者との協力		
	レポート	25	心と健康		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対してのコメントを添付し、返却します。				
使用テキスト	特に指定しない				
参考書	特に指定しない				

対象学生	地域看護学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	英会話	T11022		後期	演習	2			
担当教員	ジョナサン・ヒギンズ								
授業の概要	職場で考えられるシチュエーションでの会話を学び、それを応用させる力をつける。相手のニーズを受け止められるためにも、聞き取りにも重点を置く。 ネイティブ・スピーカーの教員が原則として英語で授業を担当します。								
到達目標	病院で外国人への対応が出来るようにする。								
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3						
	○	○							
授業計画	<p>まず病院での日常のシチュエーションを扱ったテキストの例文を学び、それをもとに自分たちで英文を考える。来院、入院中の患者への対応の様々な場面設定をし、グループごとに役割を決めて実践してみる。またビデオも活用して生きた英語を耳からだけではなく視覚的にも触れてゆく機会を多く取る。</p> <p>1-3. In the Lobby of the Hospital 4-6. Registration 7-9. Checking the Registration Card 10-12. Finding the Way 13-15. Personal History</p> <p>授業の進行状況により変更あり (役割を決め実際の場面での対応の練習を含む)</p>								
事前・事後学習について	取り上げるレッスンは多くないですが、イントネーションやリズムを考えて繰り返し練習してみましよう。この授業で目指しているのは流暢で自然な英語を話すことです。家庭学習の時間を多く割く必要はありませんので、授業時間内にパートナーと練習して小テストに備えて下さい。何度直されてもがっかりしないで、果敢に挑戦することが上達の早道です。								
準備学習に必要な時間	授業内容に合わせて必要な時間準備をしてください。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	100	グループ発表の評価と小テストによる。						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことは積極的に質問してください。								
使用テキスト	How Are You Feeling Today? やさしい看護英語 SEIBIDO The Return Of Sherlock Holmes by Sir Arthur Conan Doyle (Pearson) 2000.								
参考書	和英・英和辞書								

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	情報処理演習 T11023	前期	演習	2	
担当教員	篠田 恵				
授業の概要	基礎的なパソコン操作技術を身につけ、看護職あるいは看護研究に求められている情報活用実践力を学ぶことを目標とする。さらに、情報社会の今日的課題にふれる。				
到達目標	パソコンの操作技術を学ぶことを通して、伝えたいことが伝わるように考え、効果的に伝えるための技能を身につけることを目指します。				
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
	○	○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Windows 基礎とパソコンの基本、タッチタイピング、Teams のクラス登録について 2. 文字入力の方法と文章入力、ファイル管理の方法 Teams を活用したアンケート、課題提出、データダウンロードについて 3. インターネットと E-Mail の活用、Teams を活用した遠隔授業について 4. Word の画面構成、基本機能 5. 様々な文書の作成と編集、表の利用 6. 表現力をアップする機能を使った文書の作成 7. Excel の画面構成、データ入力と基本操作 8. ファイルの読み込み、加工、データベース機能（並び替え・抽出） 9. 新しい変数の作成（四則演算）、簡単な関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN 他） 10. 条件による処理 11. 数値データの解析（目的別グラフの作成） 12. カテゴリーデータの集計 13. Word と Excel の連携、実技試験（Word, Excel） 14. 実技試験解説、PowerPoint の基本操作、スライドの作成 15. タイピングテスト、グラフィックを利用したアピール方法とアニメーション効果 				
事前・事後学習について	タッチタイピングを自分のものにできるよう、毎日少しの時間を取り分けて練習しましょう。復習として毎回課題（必須）を出しますので、早めに取り組み、学んだことを自分のものとしてしっかり身につけましょう。課題提出は Teams を基本とします。				
準備学習に必要な時間	タイピング練習（毎日 15 分） 授業内で配布する課題（宿題）への取り組み（毎回 20 分～1 時間 30 分程度）				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	80	タイピングテスト、オフィスを利用したデータ分析・文書作成の実技試験		
	実践	15	毎回の提出課題到達度		
	レポート	0			
	その他	5	授業に取り組む姿勢		
受講上の注意・課題のフィードバック	<p>どんな職業に就くとしても、パソコンの基本技術は必ず身につけておきたいものです。この授業では、タッチタイピングといった基本操作から幅広くいくつかのソフトウェアについて学びますが、そのどれもが今後役に立つはずのものです。ぜひ自分のものにしましょう！</p> <p>授業で新しく習得した知識・技能は、毎回宿題として出される課題を通してしっかり復習しましょう（課題提出は必須）。</p> <p>また、実技試験の次の授業で解説を行いますので、欠席しないようにしてください。</p>				
使用テキスト	<p>実践コンピューターリテラシー入門 改訂版 （実教出版 2023 年 11 月 20 日発行 執筆：宮脇典彦、小沢和浩、安藤富貴子、新村隆英）</p> <p>Teams による遠隔授業の受け方（学校から配布される資料）</p>				
参考書	特に指定しない				

対象学生	地域看護学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	仏教的ターミナルケア論 T11024	前期集中講義	講義	1	
担当教員	鳥居 優美子				
授業の概要	看護は人の生老病死に向き合う仕事である。死と向き合う患者のスピリチュアルな苦悩に寄り添うということについて仏教的な観点からケアの在り方を学ぶ。				
到達目標	1. いのち観・生死観を培うことができる。 2. 仏教ホスピスであるビハーラケアについて理解でき、ケアの在り方がわかる。				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○	○			
授業計画	<p>【1～3回】</p> <p>1. ビハーラ・ケアを学ぶにあたって</p> <p>1) ホスピスって何？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本におけるホスピス・緩和ケアの導入 ・ホスピスの理念 <p>2) スピリチュアルケアとは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアとは？ ・WHO 健康の定義、スピリチュアルの定義 ・4つのケア（全人的ケア） ・スピリチュアルケアとは ・ナイチンゲールはスピリチュアルケアを含めた全人的ケアの先駆者 ・ケアとは ・いのちについて考えてみよう <p>3) なぜ、ビハーラを学ぶのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の生死観 ・日本的なケア ・生死観の確立 <p>【4～6回】</p> <p>4) ビハーラとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宗教的ケア」と「スピリチュアルケア」 ・宗教的ケアによる心の安寧 <p>2. 仏教をベースにしたスピリチュアルケア</p> <p>1) ビハーラケアの理解を深めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教とは ・ビハーラの歴史と役割 ・仏陀の教え <p>2) 仏教看護「病い観」</p> <p>【7～9回】</p> <p>3. 臨床経験より見るスピリチュアルペインとスピリチュアルケア</p> <p>1) 事例</p> <p>2) グリーフケア</p> <p>3) 寄り添う</p> <p>【10～12回】</p> <p>3) 寄り添う</p> <p>4. チーム医療とビハーラ・ケア</p> <p>【13～15回】</p> <p>5. 臨床瞑想法・まとめ</p> <p>6. 総括・評価</p>				
事前・事後学習について	テキスト：第1章 p2～18、第4章 p58～77、第5章D スピリチュアルケア p130～149、第8章D グリーフと遺族ケア p249～254 を事前に読んで授業に臨んでください。				
準備学習に必要な時間	事前にテキストを読む時間として約1時間。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	40	筆記試験		
	実践	0			
	レポート	40			
	その他	20	グループワーク参加度、ワークシート		
受講上の注意・課題のフィードバック	ワークシートを活用し、自分と向き合う作業やグループワークを通じて学びを深めていきます。演習では、ふざけずに真摯にご参加ください。また、グループワークでは、他者の意見を頭と心をつかって聴いてください。				
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 2025 第3版				
参考書	『仏教とビハーラ運動』田代俊孝著(法蔵館)、『ビハーラ往生のすすめ』田代俊孝著(法蔵館)、『スピリチュアルケア学序説』窪寺俊之著(三輪書店)、『スピリチュアルケアを語るーホスピス、ビハーラの臨床からー』谷山洋三、伊藤高章、窪寺俊之著(関西学院大学出版会)、『癒し癒されるスピリチュアルケア 医療・福祉・教育に活かす仏教の心』大下大圓著(医学書院)『ターミナルケアとホスピス』柏木哲夫著(大阪大学出版会)『実践的スピリチュアルケア ナースの生き方を変える“自利利他”のこころ』大下大圓著(日本看護協会出版会)				